

僕の住民監査請求 第四部 零落篇

中 相作

ええかげんにしとかなあかんぞと

「ええかげんにせえッ」

「いったい誰に怒ってますねん」

「誰に怒ってるのか自分でもわからなく

なるぐらい怒ってるわけです」

「たしかに腹の立つことは多いですね」

「僕なんかもうテレビでニュースとか見

ても怒りっぱなしですから」

「それは君だけやないと思いますけど」

「そうかと思うと何が起きたのか理解で

きないようなニュースもありまして」

「どんなニュースですもん」

「公安調査庁の元長官が朝鮮総連と裏で

つるんでたゆうニュースとかね」

「あれだけはほんまに信じられへんよう

なニュースでした」

「ブッシュとフセインがじつは愛人関係

にありましたみたいな話ですから」

「そんなことあるわけがないな」

「こうなるともう裏で誰が何をやってい

てもけっして不思議ではない感じですよ」

「ばれなかつたら何をしてもいいという

風潮が強まってるみたいですね」

「ばれへんかつたら牛肉のミンチに豚肉

まぜて水増ししてもええとか」

「あの北海道の会社の食肉偽装事件ね」

「ばれへんかつたら賞味期限が切れたよ

その会社の冷凍コロッケを安う仕入れて

転売してもええとか」

「あれはコロッケを横流しした業者も悪

いんですけど」

「ばれへんかつたら冷凍した肉を雨水で

解凍してもええとか」

「あとからあとからなんぼでも不正が出

てきました」

「実際あれだけ有能なアイデアマンはち

よっと見あたりませんか」

「不正のアイデアマンではあかんがな」

「名張まちなか再生委員会もあの食肉偽

装の社長さんに一枚かんでもろてたらよ

かつたんでしょね」

「なんでですもん」

「あの社長さんやつたらもつとましない

ンチキを指南してくれましたやろ」

「そんな指南はあかんゆうのに」

「でもばれへんかつたら何してもええね

んゆうて官民学が陰でこっそり癒着して

みてもあの程度のことなんですから」

「癒着ゆうたら語弊がありますけど」

「この手の悪事はあくまでもばれへんか

つたらゆうのが前提なんです」

「ばれたらえらいことになります」

「たとえば社会保険庁がそうですね」

「年金記録の問題がばれましたから」

「おかげで名張まちなか再生委員会はい

まや名張の社会保険庁と呼ばれました」

「そんなうそゆうたらあかんがな」

「ええかげんにせえッ」

「今度は誰に怒ってますねん」

「あの報告書もばれへんかったらええねんみたいな感じが濃厚なんです」

「三重大学の報告書ですか」

「『歴史・交流拠点としての旧細川邸改修に向けて』ゆうやつですね」

「どのへんがばれへんかったらええねんゆう感じなんですか」

「たとえばあの『ワークシヨップ編』の『はじめに』なんか見ましても」

「年度にまちがいがあつたところですか」

「あの報告書はそもそも公表を前提としてませんからそんなような不注意なミスが生じやすいわけなんですけど」

「緊張感がないんですかね」

「ケアレスミスはまだいいとしても意図的なパラフレーズがあるんです」

「パラフレーズといいますと」

「ひとつの表現を別の言葉に置き換えてしまうことです」

「どんなんですねん」

「さらもうひどいもんです」

「年度のほかに問題があるんですか」

「あの文章には『名張まちなか再生プラン』において、旧細川邸を改修し、歴史・交流拠点として整備することが提案されている』と書かれてるんですけど」

「それはちよつとおかしいですね」

「名張まちなか再生プランには『初瀬街道沿いの最もまとまりのある町並みの中にある細川邸を改修して歴史資料館とします』と明記されてるわけですから」

「歴史資料館が歴史交流拠点という言葉にパラフレーズされてるわけですね」

「曲学阿世という言葉があります」

「キョクガクアセイでなんですねん」

「学を曲げて世におもねるという意味です。阿は旧阿山町の阿と書きますけど」

「阿はおもねるゆうことですか」

「つまり学問を曲げて世間や権力に迎合してしまう態度のことです」

「あんまりええ態度やないわけですね」

「歴史資料館として整備するというプランを策定した委員会の委員長を務めた先生の研究室が知らん顔して細川邸は歴史交流拠点になることが決まりましたみたいいうそかましてどないするねん」

「それが曲学阿世ですか」

「このパラフレーズだけで報告書全体の信頼性がゼロになってしまふんです」

「けど実際はこう書くしかなかったんがちがいますか」

「まさしく必然的なものでしょうね」

「どうゆうことですねん」

「まちなか再生委員会はインチキにインチキを重ねてここまで来たんですけど」

「たしかにいろいろありました」

「そのインチキのツケが避けがたく回ってきたということでしょう」

「インチキをしたばかりにパラフレーズをしなければならなくなつたと」

「インチキの片棒かついでるようなこんな研究に税金百四十九万九千円を投じることはどうてい容認できません」

「やっぱり住民監査請求ですか」

「ばれたらえらいことになるんです」

「ニュースを教訓にせなあきませんね」

「おかげで名張まちなか再生委員会はいまや名張のミートホープゆうて呼ばれてるんですから」

「うそをゆうたらあかんゆうのに」

「ええかげんにせえッ」

「またかいな」

「けどほんまにええかげんなんですからこの三重大学の報告書」

「まだありますのか」

「細川邸はさっきのところで《歴史・交流拠点》ゆうことやったんですけどね」

「それがどないしました」

「報告書の六ページからは《歴史・文化拠点》ゆうことになって十二ページでまた《歴史・交流拠点》に戻りまして」

「えらい適当な報告書ですな」

「そのうえ『ワークシヨップ編』の次の『提案編』に入ったら突然《歴史拠点および交流拠点となる旧細川邸（仮称『初瀬ものがたり交流館』）》ゆうことになってしもてるんです」

「『初瀬ものがたり交流館』がいきなり出てくるんですか」

「なんの前ふれもなく出てきます」

「その『初瀬ものがたり交流館』が結局は『やなせ宿』になったわけですね」

「なんぼでもころころ変わるほどええかげんで適当な提案やゆうことなんです」

「その『提案編』では細川邸についていろいろ提案されてるわけですか」

「提案というより悪だくみの結果報告ゆうたほうが正確ですけど」

「どんな感じですねん」

「たとえばまあ『イベント利用』としては《NPOなばり実行委員会が名張のまちなかを売り出すために、年に数回、まちなか全域を舞台にしたイベントを企画実施し、イベントの拠点会場として使用する。例えば、2006年11月に実施された隠街道市のように、展示や催事の会場などに利用する。駐車場および堤防道路では青空市が開催される。また、『初瀬ものがたり交流館』はイベントの事務局としても利用される」とかですな」

「要するにイベント会場ですか」

「いくら悪だくみしてもこの程度の知恵しか出てこないわけなんです」

「しかし細川邸というハコモノでイベントやりますゆうのやったらほんまに君の言葉どおりハコモノ崇拜主義とイベント尊重思想のあいだで深い考えもなしにふらふら揺れてるだけの話ですがな」

「ほかに《イベント以外の日常的な利用として、第1にNPOなばり実行委員会が運営する事業（例、腕きおばさんが運営する総菜バイキングのレストラン、腕利きの市民が参加するコミュニティレストラン、地域の人が収集した懐かしの写真展）の会場、第2に市民活動組織やボランティア組織の活動の場（例、ボランティアサークルが行う福祉のパンつくり講座、そばうち講座）、第3に冠婚葬祭などに利用したい市民への貸館が想定される」とかゆう提案もありまして」

「腕きおばさんのレストランとか蕎麦うち講座とかそんなんでええんですか」

「でも最終的にはこの『提案編』にもとづいて実施設計が行われたんです」

「『やなせ宿』の基本になったのがイベントとか飲食とか展示とか講座とかこんな程度の提案やったゆうことですか」

「いやそんなもん提案ゆうたかて君」

「なんですねん」

「施設が『やなせ宿』だけにこんな提案みんなヤラセですがな」

「しょうもないことゆうとる場合か」

「ええかげんにせえッ」

「まだやりますのか」

「それにしても見事なもんですね」

「なんのことですぞね」

「僕はいまになって急にこんなこといいだしてゐるわけではないんです」

「といたしますと」

「名張まちなか再生プランの素案が発表された時点でこんなインチキプランええかげんにせえゆうてパブリックコメントを提出したわけですから」

「それでいったい何が見事なんですか」

「どれだけゆうても誰ひとりとしてええかげんにしてくれた人がいませんでしたからその点じつに見事なもんでして」

「感心しとつたらあかんがな」

「つくづく実感したのはこのらあほには歯止めがきかないゆうことですね」

「外部の人間の意見を聞く考えはないゆうて明言してゐるぐらいですから」

「あほのみなさんが人のゆうことにいっさい耳をふさいでまちがったほうへまちがったほうへ突っ走ってくれました」

「それでこのていたらくですか」

「つまり名張市は『生誕三六〇年芭蕉さ

んがゆく秘蔵のくに伊賀の蔵びらき』の

失敗から何ひとつ学んでないんです」

「やっぱりあの事業とおなじことをくり返してゐるわけですか」

「そこらのあほ何十人と寄せ集めて委員会とかつくつてもろくなもんやないゆうことがまだわかつてないわけですから」

「委員会制度には問題あるでしょうね」

「君だいたい名張まちなか再生委員会の某メンバーがなんと口走つたと思う」

「なんてゆうてましてん」

「おれはこのまちなか再生事業で一億円の金を自由につかえるねん」

「それほんまの話なんですか」

「そんなことをゆうて回つてゐるあほもいたぐらいですからもうひどいもんです」

「信じられへんような話ですけど」

「その手のあほにつけ込まれてゐるようではまちなか再生プランというか名張市という自治体そのものが終わりですから」

「なんでこんなことになったんですか」

「これがつまり『新しい時代の公』たら

ゆうものの正体なんです」

「伊賀の蔵びらきでも耳にしましたけど

『新しい時代の公』てなんですかねん」

「頭の腐りきつたお役所の人たちが思考能力のなさを隠蔽するために『協働がどうたらこうたらあー』と呼びかけます」

「協働ですか」

「そうすると私利私欲をむきだしにした地域住民が『協働がどうたらこうたらあー』ゆうてむらがり寄つてくるんです」

「私利私欲ですか」

「名譽欲とか権力欲とか自己顕示欲とかもちろん金銭欲とかを全開にしたあほが

なんぼでもわいてきたゆうのが伊賀の蔵びらきの実態でしたからね」

「それが『新しい時代の公』ですか」

「官民双方のあほが野合して何も考えることなく思いつきで好き勝手なことをするのが『新しい時代の公』なんです」

「そんな無茶苦茶ですがな」

「その無茶苦茶を僕は伊賀の蔵びらきでも名張まちなか再生でもまのあたりにしてきたわけですから」

「ええかげんにせえといたなるのも無理ないかもしれせんね」

「ええかげんにせえといたなるのも無理ないかもしれせんね」

ほんまにええかげんにしとけよと

「難しいこと考える必要はありません」

「どないしました」

「ただの思いつきでOKです」

「なんの話ですわね」

「だいたいわれわれにもただの思いつき
しかないんですから心配ご無用」

「君いったい誰やねん」

「お役所の人です」

「どうゆうことなんですか」

「お役所の人たちが『新しい時代の公』
というお題目を掲げて地域住民に呼びか
けるときの心の声はこんなかなと」

「そんな心の声では困りますがな」

「けど『新しい時代の公』の実態はこん
なもんですから」

「深いことは考えないんですか」

「お役所の方が公とは何かみたいなこと
を真剣に考えたりすると思えますか」

「考えなあきませんがな」

「そんなお役所の人たちが『新しい時代
の公』とか呼びかけたおかげで公という
ものがすっかり変質してしまいました」

「どうしてなんですか」

「官民のみなさん双方ともに公とは何か
とか公と私との関係はどうあるべきかと
かまったく考えようとしませんから」

「けどいちおう公の話なんですから」

「ですからそれは表層的で個別的で恣意
的で欲望の器でしかない公なんですわね」

「ちよつと難しいんですけど」

「ひとことでゆうたら私にとつての公」

「私にとつての公ですか」

「個人が思いつきで公を規定する。それ
をそのまま一般化してあやしまない」

「そんな適当なことではええんですか」

「しかも私にとつての公は私にとつて心
地よいものでなければならぬ」

「心地よいといいますと」

「公に携わる私の名誉欲とか権力欲とか
自己顕示欲とか金銭欲とかを満足させて
くれるのが公でなければならぬ」

「えらい身勝手な話ですな」

「けど伊賀の蔵びらきにおける『新しい
時代の公』はまさにそうでしたから」

「そうやったかもしれませぬね」

「ですから名張市の市民公益活動実践事
業なんかもね」

「市民からいろいろ事業プランを募集し
て毎年やっていますけど」

「完全にプチ伊賀の蔵びらきですから」

「伊賀の蔵びらき事業の縮小版ですか」

「たとえば細川邸の裏にピラミッドとス
フィンクスの看板を立てて喜んでる気の
ふれたようなあほがいましたけど」

「おととしの夏のことでしたか」

「名張市はあんなインチキ事業を税金で
バックアップしてたわけですから」

「あれが公益活動実践事業やと主張され
たらさすがに引いてしまいます」

「結局『新しい時代の公』の名のもとに
公という概念が変質してさらにその公の
断片化や私物化が進行してるわけです」

「公の私物化ですか」

「げんに細川邸はイベントとか飲食とか
のための施設としてそらのNPOに私
物化されようとしてるんですから」

「かなりおかしい話になってます」

「まちの歴史になんの関係もない新しい
施設をつくってそんなもんどこがまちな
か再生やねんゆう話なんです」

「再生からかけ離れてしまいました」

「もう取り返しはつかないんですけど」

「なんですねん」

「僕が提出したパブリックコメントの意味をまったく理解できなかったというのが名張市にとって痛かったですね」

「細川邸は名張市立図書館ミステリ分室にするというアイデアでしたけど」

「あんなんそこらのコンサルタントに何百万という札束を積んでもけっして出てこないアイデアやっただんですけどね」

「それを理解できませんでしたか」

「だいたい細川邸をまちなか再生に役立てるのであればそれはあくまでも市の施設として運営されるべきなんです」

「行政の責任ゆうやつでしようね」

「にもかかわらず曲学阿世の名張まちなか再生プランには《歴史資料館の管理運営は民間が担う公設民営方式とします》とか虫のええことが書いてあります」

「名張市が施設をつくってあとの管理運営は民間がやるゆうことですか」

「ゆうたら建て逃げですわね。そんなことゆうてるからわけのわからんNPOに私物化されることになるんですけど」

「けど名張のまちで何をやったかて独立採算制では無理でしょうからね」

「だから公共施設なんです。図書館の分室なんです。行政としてその程度の覚悟もないのやったらまちなか再生とかいいだすんやないわいゆう話なんです」

「新町の古い民家を再生して寄贈図書でミステリ専門の図書館をつくるというのは名張のまちの地域性とかにもね」

「いや君。もう終わった話ですから」

「けどなんや惜しいような感じで」

「パブリックコメントに書かなかったアイデアもまだあるんですけど僕のいちばんのねらいはやはり乱歩のことです」

「乱歩のことといますと」

「名張市はなさない自治体なんです」

「何がですわねん」

「名張市立図書館の江戸川乱歩リファレンスブック三冊のデータをインターネットに公開することさえようしません」

「なんでですわねん」

「財政難」

「財政難て君」

「どんだけえーゆうような話ですけど」

「なんぼなんでも財政難は関係ないと思いますけど」

「つまり図書館として乱歩のことちゃんどやっていくのがいやなんでしょうね」

「なんでですわねん」

「いったん公開したらデータの更新とかいろいろ乱歩のことをやっていかなあかんという新しい責任が生じますから」

「けどインターネットを利用して乱歩にかんするサービスを提供していくのは必要なこととちがうんですか」

「お役所の人はそうは考えません」

「どんなふうに考えますわねん」

「なんの責任を負うこともなく定年退職まで波風のない公務員人生を送りたい」

「なんですわねんそれ」

「とにかくミステリ分室構想には名張市立図書館がインターネットを利用して乱歩関連情報を発信したり全国の乱歩ファンやミステリファンと連携しながら名張独自の企画をくりひろげたりする可能性

が秘められていたんですけどその芽がこことく踏みにじられてしまいました」

「すべて水の泡で残念な話ですけどね」

「何が起きたのか理解できないニュースというのが名張市にもありましてね」

「どんなニュースでした」

「名張市が乱歩文学館の建設を断念」

「新聞に出てましたね。名張市長が市議会で建設断念を表明したそうですけど」

「さっぱり理解できません」

「なんでですねん」

「乱歩文学館について検討していたのは名張まちなか再生委員会なんです。むしろインチキな話ではあるんですけど」

「でも二〇〇六年度の総会で乱歩文学館を建てることになったそうですから」

「再生委員会と名張市がプランを勝手に変更できる『時点更新』とかゆうインチキ制度をでっちあげただけなんです」

「それでOKゆうことにしたんですか」

「身内で決めただけで市民のコンセンサスなんかどこにもありません」

「乱歩文学館を望む市民の声はあるとちがいますか」

「そんな市民がどこにいるねん」

「それを聞いてどうするんですか」

「思いきり叱り飛ばしたるねん」

「叱らんでもええやないですか」

「不心得な市民は叱り飛ばしたらなあかんですけどたしかに乱歩文学館をつくるうという声は昔からあったんです」

「それやったらよろしがな」

「けどそうゆう市民要望にはきちんとノIをつきつけとかなあきません」

「なんでですねん」

「どうして名張市に乱歩文学館を建設しなればならないのか。かんじんの理由がその要望からは欠落してるんです」

「なんでそんなことわかりますねん」

「そしたら乱歩文学館が必要やゆうてる市民つかまえてなぜそんな施設を税金で建てなあかんのか質問してみなさい」

「どないなりますねん」

「誰のために文学館を建てるのか。そんなもん建てて何をするのか。質問に答えられる市民はひとりもいないはずです」

「乱歩顕彰とかよくいわれますけど」

「それがおこがましいんです」

「なんでですねん」

「顕彰ゆうのは世に知られていないものをひろく知らせることなんです」

「それやったら乱歩は大メジャーですか
ら顕彰なんか必要ないわけですね」

「事実まいったく逆なんです」

「何が逆なんですか」

「乱歩という有名作家の名前を利用して名張市というあまり知られていない自治体を有名にしたいだけの話なんです」

「それが市民要望の本音ですか」

「市民のみならず行政サイドの願望もそうなんです」

「そしたら乱歩文学館構想の正体はやっぱり自己顕示欲とかそんなんですか」

「そこらのお姉さんが有名ブランドに執着する以上のものではありません。要するにうわつつらだけなんです」

「それで乱歩文学館の中身のことがいつまでも決まらなかつたわけですか」

「うわつつらのことしか考えられない人間にできるのはせいぜい乱歩文学館ゆうハコモノの名称を思いつくぐらいです」

「そこから先には一步も進めないと」

「本も読まんような連中が文学館とかい
いだすから話がおかしくなるんです」

「ほなどないしたらええんです」

「身のたけ身のほどをわきまえたうえで地に足をつけて考えることでしようね」

「乱歩にかんして何をしたらいいのか」

「そこらにしょぼい乱歩文学館とかつくっても全国の乱歩ファンやミステリアファンの笑いものになるだけですから」

「学芸員ひとり雇えないでしょうね」

「何かというと財政難のひとことで逃げ

を打つ名張市にはとても無理です」

「乱歩文学館の建設も財政難で断念したゆうことでしたから」

「ええかげんないわけですけどね」

「けど名張市は財政難ですから」

「まちなか再生委員会が二〇〇六年度総会で乱歩文学館の建設を決めた時点で財政難はわかりきってましたがな」

「そしたらどうゆうことですねん」

「細川邸だけのうて乱歩文学館も建て逃げする算段やったのちがいますか」

「新聞には文学館の維持管理費がどうゆうゆうて書いてありましたけど」

「建設後の丸投げ先が見つからない。市で管理するとお金がかかる。断念するしかない。まあそんな感じでしょうね」

「ほんまにええかげんな話ですな」

「けど本当にええかげんで理解できないのは名張市長の表明なんです」

「建設断念の表明ですか」

「再生委員会の結論も出てないのになんで市長が断念を表明できますねん」

「たしかに名張市から委員会に検討がゆだねられてるわけですから」

「いっぽうではNPOによる細川邸の私物化工作を放置しておきながらそのいっぽうで再生委員会の協議検討に介入して行政サイドの都合を押しつける」

「なんやようわからん話ですな」

「名張市はいろいろ委員会とかつくつてますけど組織の主体性や自立性というのが全然わかってないみたいですね」

「いったいどないなってますねん」

「この名張市で何が起きているのか僕にはまったく理解できないんですけど名張まちなか再生プランにかんしていえばインチキにインチキを重ねたあげく」

「最後までインチキやったわけですか」

「ええかげんにせえインチキ自治体ッ」

「君そんな大きな声で」

「ではここで問題です」

「なんですもんいきなり」

「この大河漫才『僕の住民監査請求』には『インチキ』と『あほ』という言葉がそれぞれ何回出てきたでしょうか」

「そんなもん数えてどないするねん」

「おわかりのかたは官製はがきに正解と住所氏名年齢職業電話番号を明記してどしどしご応募ください」

「そんなことゆうて本気にする人が出てきたらどうするつもりなんですか」

「郵便番号は五一八〇四九二。三重県名張市鴻之台一番町一番地」

「それ名張市役所の住所ですがな」

「この郵便番号は『来いや丸い子宮に』とおぼえておくといいでしょう」

「そんなシモネタのおぼえかたしらないんですか」

「宛先は名張市役所まちなか再生部見事失敗室ええかげんにせえ係です」

「ええかげんにせえッ」

「ええかげんにせえッ」

「ほんまにええかげんにせえッ」

(住民監査請求をめざす名張市民)